

第4718号

(第三種郵便物認可)

教 团 新 報

2011年3月5日

(2)



綿密な分析、深い学びが反映されて

2011年2月1日、日韓教会交流史研究会が韓国・長老会神学大学と聖学院大学による共同研究会として開催された。この研究プロジェクトは両大学と長年にわたって深いかかわりをもつ、池明觀（元東京女子大学教授）、康仁徳（元韓国統一省長官）両氏の共同提案趣旨には「日韓のキリスト教史を1910年を起點に、日韓関係の未来に向けて前向きに捉えなおす。北朝鮮、中国を視野に入れ、

日本における各教派の教会教説が講演、その当時の動機」などの題で、原誠氏（同志社大学神学部教授）が講演、その当時の日本側から見た日韓キリスト教会交流との題で、稻田大学研究助手の講演を行った。その内容として、自らの教会立志を向し、組合教会に加入することで、自らの教会の自治拡充と財政支援を得たという側面が提示された。

2011年2月1日、日韓教会交流史研究会が韓国・長老会神学大学と聖学院大学による共同研究会として開催された。この研究プロジェクトは両大学と長年にわたって深いかかわりをもつ、池明觀（元東京女子大学教授）、康仁徳（元韓国統一省長官）両氏の共同提案趣旨には「日韓のキリスト教史を1910年を起點に、日韓関係の未来に向けて前向きに捉えなおす。北朝鮮、中国を視野に入れ、

北東アジアの教会の交流と協力の基礎を築く

日韓教会交流史研究会

2011年2月1日、日韓教会交流史研究会

指導者たちの発言を引用しつつ、「文明の梯子段」（鶴見俊輔）の枠組みの中で、日本のキリスト教会もこれまでに貢献し、国家から認知されることが最大の課題であつた。したがって日本の支

援力・統治力が拡大されにく韓國の中、日本のキリスト教会がこの政策にコ

ミットしないという選択肢は存在しなかつたと述べ、ただひとり柏木義円の視点のみが出色であると結んだ。

二人目、松谷基和氏（早稲田大学研究助手）の講演

が子細に分析された。そし

て、米国人宣教師からの意見交換がなされた。

意見交換がなされた。

また、研究会の中での「朝

鮮」「日韓併合」の語の使

用については、一次史料に即して議論するという學術

研究の性格によるものであ

ることが確認された。

なお当日40名ほどの出席

者のうち、日本基督教団教

師の参加者が10名を超

る。この主題への関心の高さを窺わせた。

同研究会は3年間の研究

プロジェクトとして企画さ

れており、今後さらに19

45年以降の西国デモクラ

シーと教会の関係につい

て、さらに21世紀の北東ア

ジアにおける教会の役割に

ついても研究が進められ

ることとなっている。

（新報編集部報）

十日町教会「利雪・克雪」の地で

思いを寄せ合い、祈り合い



震災後再建した牧師館(正面の建物)

秋に出された長期予報通り全国的に大雪となつた今冬、十日町教会周辺は積雪が3メートルを超えました。過去10年で3回目ともなれば驚くほどのことではなくなりましたが、日課と本格的な降雪の季節に怯え

6年前の晚秋、新潟県中越地震の被災地となつたこの地域は、まもなく訪れる雪は言え、毎日数時間にも及ぶ除雪作業は楽ではありません。せん。

6年前の晚秋、新潟県中越地震の被災地となつたこの地域は、まもなく訪れる雪は言え、毎日数時間にも及ぶ除雪作業は楽ではありません。せん。

か？ 傷ついた家が豪雪に耐えられるのか？ そんな不安が人々の心を支配していました。そもそも雪災に

よって傷ついたのは目に見える建築物ばかりではなく、何よりも人々の心でした。ですから、皆が心に思いました。そもそも雪災に

て、傷ついたのは目に見え

る場所が与えられているで

はありませんか」と励ます

その姿、それによって元気

づけられ明るい笑顔を取り

ります。

しかし、残念ながら人々の不安は現実のものとなり、その冬は19年ぶりという豪雪になりました。そのため震災後に引き続き、たくさんのボランティアが駆けつけてくださり、一緒に汗を流してくれました。駆けつけてくださった皆さんが取り除いてくれたのは雪ばかりではなく、被災地を飲み込もうとした暗く重い空気であり、ともすれば私たちから生きる元気さえも奪おうとする邪悪な陰でした。決して目には見えない、けれども確かに私た

ちを包んだ光は、被災地を

思う人々の祈りと励まし

共にもたらされたのであり

ました。

「もともと雪国なのだから、大雪だからと騒ぐこと

はない」そうおっしゃる信

吏の記憶に鮮やかにのみがえ

ります。

震災後再建した牧師館(正面の建物)

紋師の パートナー

全国教会婦人会連合 牧師夫人研究委員会

つて現金を得ようとする姿は、特に会堂建築などを経験した者にとって共感できる事柄でした。

牧師夫人研究委員会は、全国教婦人会連合の小委員会の一つです。1967年に婦人伝道専門委員会が主催した全国集会で、「私の訴え」と題し、2人の牧師夫人から率直な発言が行われたのを機に、牧師夫人の手による「牧師夫人生活実態調査」が発表されました。その結果、牧師夫人一人で担える問題ではなく、日本の教会全体の課題であるとして、1975年に「牧師夫人委員会」が発足し、①全国レベルの会を持つ、②互いの実態を知つて伝道の活力とする、③各地で開かれる牧師夫人会

案をおこなっています
今年は、1968年、1971年、1995年に統いて4回目
アンケート調査を『道のり』⁵³
(2011年1月15日発行)に
実施し、この度、全国の教会に
送ることにいたしました。牧師
夫人のおられない教会や女性教
職が牧会される教会もあります
が、許される範囲でご回答をお
願いいたします。
また、今夏は第18回全国牧師
夫人の会を、次の通り開催いた
します。

神からいただいた 尊きの中で

森稚子

(牧師夫人研究委員會委員長)



第36回総会期の委員会

出版局ニュース

http://www.bp.uccj.or.jp

★新刊から
『聖書は語りかける』W・
ブルッゲマン・著 左近
豊・訳 現代を代表する旧
約聖書学者が聖書全体から
現代社会に語りかける力強
い神の言葉。2、310円

『サウローキリスト教回心
以前のパウロ』M・ヘンゲ
ル・著 梅本直人・訳 キ
リスト者以前のパウロの出
自、教育、迫害者としての
姿などを、ユダヤ教やヘレ
ニズム資料を駆使して考察
する。2、520円

『古代末期に生きた最初の
現代人－アウグスティヌス
義の戦争』はあり得るの
か?.....現代の問題を1
600年前に考察していた
思想家の叡智をやさしく紹
介する。1、260円

『つさおとあるく教会史』
しおたになおや・著 「う
さお」とゆかいな仲間たち
が旅するキリスト教200
0年の歴史。歴史展開と偉
大な信仰者たちをイラスト
入りで学ぶ。1、890円

『シンボルで綴る聖書』今
橋朗・著 著者が書き起こ
した180点に及ぶシンボ
ルを通して、神の救いの歴
史を展開する。[CD-ROM
付] 1、680円

★新シリーズ
「シリーズ・神学は語る」
テーマ毎に現代の神学者た
ちの考察を簡潔に紹介。

昨年の夏に開催された同志社神学協議会において、会衆派から見た教団の構造を「団子」とそれを貫く串とするモデルが提示され、参加者全員から、ほほ異論なく受け入れられた（と思う）。

団子が各個教会であり、それを貫く串によって、その一体性が確保されているという意味である。

会衆派の伝統に立つ者の一人として、私もこのモデルに異存はない。ではこの串とは何か。私見では、それは教憲・教規以外には無い「体質改善」を迫るなどということであろう。会衆派の伝統に立つ教会（また信徒）と雖も、共有す

るルールは順守しなければならない。小学生でもわかる理屈である。同時に、教団にはこのルール遵守のみが求められるのであって、個人の思想や政治的決断に関する事

見る教団の現状

会衆派の視点から

教団総会は少人数で法定事項の柄を「総会決議」によって拘束して、私もこのモデルに異存はない。ではこの串とは何か。私見では、それは教憲・教規以外には無い「体質改善」を迫るなどということであろう。会衆派の伝統から見た時に、あ

たしに与えられた幻である。

（教団副議長 岡本知之）

Journal of Health Politics, Policy and Law, Vol. 32, No. 4, December 2007
DOI 10.1215/03616878-32-4 © 2007 by The University of Chicago

Photo by G. L. Johnson



学校法人日本藝話学校
校長。翠ヶ丘教員